



# むぎの郷

## 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

June 2026

こじか園／第二こじか園／はぐるま共同作業所／はぐるま共同作業所 和の社／はぐるま共同作業所 ラ・テール／麦の郷印刷／ソーシャルファームビネル／むぎピース／ソーシャルファームもぎたて／meglück(メグリュック)／六星舎／叶夢向／麦の郷 和歌山生活支援センター／麦の郷 紀の川生活支援センター／障害者就業・生活支援センター つれもて／くろしお作業所／麦の郷訪問看護ステーション／麦の郷居住福祉事業所／ハートフルハウス 創／事務所／ゆめ・やりたいこと実現センター／ちいき暮らしサポートセンターわかやま／麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美

発行／麦の郷情報管理委員会  
〒640-8301 和歌山市岩橋643

TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
<http://www.muginosato.jp>

## 麦の郷 50周年記念 ロゴ・キャラクター決定しました!

2027年3月に、麦の郷（社会福祉法人一麦会）は50周年を迎えます。2027年3月に向けて、さまざまな50周年企画のイベントや広報、研修、出版などの取り組みが始まっています。その中の1つの企画として、麦の郷の50周年記念のロゴやキャラクターを作ろう!と公募し、たくさんの方に応募していただきました。その中から選出するのは、至難の業でしたが…ロゴとキャラクターのそれぞれが決まりました。

### 50周年記念ロゴ



デザイン（作者）：おざき りさ さん

### 麦の郷公式キャラクター

#### 『むぎやん』



デザイン（作者）：くさば さん

このロゴとキャラクターを用いて、麦の郷の50周年を盛り上げていきたいと考えています。むぎの郷通信の中にも、使用していこうと思っています。みなさんからも愛されるロゴやキャラクターになりますように。

## 私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざします。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践をめざします。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





## 麦の郷 50 周年です

1977年3月7日、盲ろう重複障害のある青年の「働きたい、友だちがほしい」という願いから「たつのこ共同作業所」は始まりました。さらに、精神障害のある姉弟の「ここ（たつのこ）にいたい」という願いに「ほっとけやん！」と、精神障害者の社会参加の運動がスタート。そこから、知的障害のある人、重複して障害がある人、精神障害のある人、発達支援が必要な子どもたち、生きづらさを抱え学校や社会に出ていく

ことがむずかしい人、高齢者、働きたい人、居場所がほしい人、それぞれの願いや思いを、たくさんの人に支えてもらいながら、カタチにしてきました。

50周年の企画は「これまでの感謝」や「今の麦の郷を知ってもらおう」とどまらず、これからの未来、誰もが住みやすいまちづくりのきっかけにしていきたいと思っています。

### 式典

50年をみんなで祝いたい！  
みんなにありがとうを言いたい！

### 講演会

平和への思いをみんなと共有したい  
2027年3月6日

### 研修

歴史・視察・平和。  
これからの福祉を担う職員に、  
さらにパワーアップ

### 麦フェス

麦ブランドの販売、ステージ発表など  
麦の郷のいいところを知ってほしい！  
みんなのやりたいをカタチにしたい、  
とにかく楽しみたい  
11月22日・ビッグ愛

### むぎすぼ

ほかの事業所の  
人たちと交流したい！  
という仲間の希望を  
実現させよう

### 本の出版 ・記念誌・動画の作成

麦の郷のこれまでを振り返り、  
未来につなげたい  
麦の郷を知ってほしい

### 記念グッズの 作成・販売

新しい麦の郷ブランドに挑戦

現在企画中のイベントです。

進捗や報告はむぎの郷通信、ホームページ、SNS（準備中）

などで随時報告していく予定です。

## 理事長 コラム

## 日々是雑感 追想 多田君のこと②

大学1回生の夏休みに開かれた障害児者の夏キャンプで出会った多田君は、私に多くのことを教えてくれました。多田君は、先生方の説明では、重度の知的障害で自閉性を持っている人だとのことでした。9歳の彼は、まったく言葉をもたずに、私には、噛みつか髪を毛をひっぱる（いや引き抜くが妥当かもしれません）で自分の意思表示を行ないました。

そんな多田君からどうもなにやら匂いがしてきます。私は、どうもうんちかもしれないと思いつつも、どうしたらいいかわからず困っていました。その時、私たちが「ぶーさん」と呼んでいる3回生が、私が困った顔をしていたのを察知したのか、「どうしたの？なにがあった？」と声をかけてくれたのです。

私は、「多田君、どうもうんちしたようなのでお母さんを探そうと思っています」と答えると、ぶーさんは、「お母さん、多田君のお姉ちゃんにつきっきりになっているから自分でどうしたらいいか考えて」と冷たく突き放したのです。多田君のお姉ちゃんは、交通事故の後で重度の身体障害となり車いすの生活になっているとの説明を受けていたことを忘れていました。しかし、自分で考えよと言われても困ってしまいます。そうしていると、ぶーさんが、多田君

を抱き、彼のおしめをとり、きれいな浅い小川に入っていたのです。そうして、なんと、多田君と遊んでいるではありませんか。しかも、多田君がキャキャと声をだすかのように体を震わせているのです。

私は、「ぶーさん、どうしてそんなことができるのですか？どうしてお母さんに無理だと思っけていてもお願いしないのですか？」と尋ねました。そうすると、ぶーさんは、どう答えたとおもいます？

(理事長 山本 耕平)



日々是雑感とは、私の人生で感じたことや思ったこと、四方山話などを徒然にお話しようと思ひ、このテーマにしています。

## 心新たに～辞令交付式～



3月30日、麦の郷の本部で辞令交付式が行われました。新たに総合職になった職員と新たに管理者になった職員が、理事長から辞令を受け取りました。

私自身、くろしお作業所で長年仲間たちと関わってきました。仲間たちと日々過ごしている中で、たくさんの気付きがあります。今日はいつもとより元気だな、元気じゃないな…、言葉だけではなく、表情で何かを伝えようとしてくれているんだな、こういうことを考えているのではないかな…など。そういった気付きを忘れずに、これからも日々を過ごしていきたいです。そして、仲間たちが一日一日を充実して過ごし、明日もまた来よう！と思える環境づくりを続けていきたいと思っています。

(くろしお作業所 道幸 美也子)

## 麦の郷防災の日の取り組み

3月11日、東日本大震災の発生から15年を迎えました。

麦の郷防災の日に合わせ、麦の郷安全対策委員会主催で「きいちゃんの災害避難ゲーム」をおこないました。

多数の事業所より22名の参加があり「避難所を運営しよう」というボードゲームをチームに分かれおこないました。



難してきた方はどこに駐めればいいのか?などの課題がある中、年齢や身体的な症状、病気や障害など様々な方が避難する場所で避難者が少しでも安心して過ごせるにはどうすればいいか、みんなで一生懸命考えました。

私自身大きな災害に遭ったことはなく、避難所の様子はテレビからの情報だけでした。今回ゲームで学んだことが多数ありました。

今後来ると言われている南海トラフ地震に向け、私の勤務するグループホームでも年に2回の避難訓練、避難リュックの準備や災害用ヘルプカードの見直し、防災倉庫などへの備蓄対策はしていますが、避難所での過ごし方などをしっかり想定し、対策を考えていかなければと改めて感じました。

まだ「きいちゃんゲーム」をされていない事業所におかれましては、ぜひ職員会議などにおいて実施することをおすすめします!(レンタルは各地域振興局へ)

(麦の郷居住福祉事業所 岩名 美歌子)



どんなゲームか簡単に説明すると、避難所運営を体験し、従事する内容や状況に応じ判断力を養うシミュレーションゲームです。それぞれが避難所運営本部の担当班長になり、時系列で発生する避難所内外の課題やトラブルに対応しポイントを競います。

避難場所は学校で、体育館で過ごすことが難しい方には教室や保健室、歩行が難しい方には1階、車で避

## \*むぎ・わくわくレポート 28\*

### 朝のひととき



むぎピースの朝は雑賀さん、廣瀬さん、野々村さんの3人と2階へ食器を取りに行くことから始まります。雑賀さんの「赤いかなごわ?」という声をきっかけに2人も一緒に2階へ行く準備をします。食器が入り重くなった赤いかなごは「まかしとけ」という様子で廣瀬さんが運んでくれます。この3人はむぎピースに温かさをも

たらしてくれます。雑賀さんと野々村さんが「唐揚げととんかつどっち好き?」「天津飯と餃子、中華丼どれ好き?」と話しているのを少し離れたところから前のめりになり優しい顔で見守っている廣瀬さん。野々村さんが通院で休む日には「今日は野々村くん休みかな」「明日は野々村くん来るかな?」とよく言葉にする雑賀さん。「笑ってる」「今は怒ってる」と廣瀬さんの調子を報告してくれる野々村さん。3人のおかげでむぎピースは今日も平和です。

(むぎピース 井上 水花)

## 麦の郷全職員研修会



2月14日(土)プラザホープ4階大ホールにて、「麦の郷全職員研修会」が開催されました。

前年度までと違うのは、全職員が対象となった事です。これまでは、一般職・総合職の職員が対象でしたが、対象の枠を拡げて学びを深めていこうという趣旨から全職員対象となりました。もちろん、業務や事情で来られない方もいるため、後日、研修会の映像を見てもらう形で補講も実施しました。当日参加は140名、補講参加は13名と、たくさんの方が参加してくれました。

今回の研修は、佛教大学教授の田中智子先生に講師をしていただきました。テーマは「障害のある人の暮らし権利」です。まず、アンケート調査からケアの家族依存の状況・その社会的背景について述べられました。「親の自分自身の老後をどうしたら良いかわからない」「親なきあとの不安」など、将来の見通しがつ

かないまま家族(主に母親)がケアラーになってしまっている現状、その背景に経済的課題や健康問題など様々な課題を抱えながら、含み資産として家族が捉えられ、社会資源がその補填的役割しか引き受けていない社会的構造を分かり易く説明して頂きました。そして、「支援者の役割」について、私達は、暮らしの共同決定者であるという事。それは共に悩んでいるのか?対等性を基本にして価値ある選択肢を提示できているのか?「見放さない」安心感を与えられているか?支援と管理の線引きが出来ているか?と、実践者として毎日関わる私たちにとって、大切な内容を提示して頂きました。今回の研修を今後の実践に繋げていければ、厚みのある実践になると思います。ともに育ちあいましょう!

(麦の郷教育研修委員会 山本 哲士)

## 麦の郷 50周年企画に向けて



紀の川生活支援センターでは、地活メンバーより募った実行委員の4人を中心に大企画を検討しているところです。内容は、数年前より何度も話が立ち消えてしまっていた

★USJ★という近くも遠い存在...実現できていなかったUSJの、あの大きなゲートをみんなでくぐるわけではない!!と、まずは県の福祉バスの当選に向け

た祈願からスタート。金銭的不安解消のためにダイヤモンドの小物を作り、販売にむけてみんなでこまか〜い作業に日々取り組んでいます。

7月12日(日)には、むぎたぶ(麦の郷多文化共生・国際交流センター)とのコラボ企画『ルンダンパーティ(インドネシアの伝統的な肉料理のふるまい)』を開催予定。地域の方にも参加していただけるよう紀の川市広報紙への掲載依頼中です。さらに、昨年度きょうだいで作成された絵本(メンバーの一人がイラストに関わった)の登場人物であるしゅちゃん・りんちゃん家族の人形を4体製作していただくことができたので、紙芝居と共に人形劇を発表する機会のために練習していきたいと考えています。

(麦の郷紀の川生活支援センター 吉井 美紀)



## 第30回 西和佐地区社会福祉協議会・麦の郷春祭り



4月11日(土)、西和佐小学校体育館において第30回西和佐地区社会福祉協議会・麦の郷春祭りが開催されました。多くの来賓および地域住民の皆さまにご参加いただき、にぎわいのある催しとなりました。式典では温かい祝辞をいただき、交流会では餅まきや

よさこい、カラオケ、ピンゴ大会など多彩な企画が行われ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。地域のつながりを改めて感じられる、心温まる一日となりました。

(麦の郷和歌山生活支援センター 構口 大輔)

## はぐるま共同作業所給食部朝のストレッチ体操の様子を紹介します。



給食部の朝はストレッチ体操からはじめられます。

9時ジャストに鳴る職員のスマートフォンのメロディを合図にストレッチ体操を開始。まず、首を左右にゆっくりと回し、次に背中

と肩の筋肉と関節をほぐしてアキレス腱を伸ばして、最後にひざの屈伸…スクワット体操で仕上げます。

給食部の作業は調理はもちろんですが、70人分のお米が入った重たい炊飯釜を持ったり、70人分の食器の入ったカゴを運んだり、不自然な姿勢でかがんで調理台下に置いている大鍋を取ったり等々、瞬時に体

の柔軟性とパワーが要求される場面が多いのです。なので作業前のストレッチ体操は、腰やひざ、肩のトラブルを予防する大切な朝の儀式?みたいなものなのです。

スクワット体操のとき、職員二人は給食部の20代の若い今泉さんのキレのある動きについていけず(笑)動きがズれてしまい今泉さんがしゃがんだ時、職員はまだひざを伸ばした状態。外から見ると給食部4人の動きがバラバラでまるでモグラたたきゲームのような動きになっていてコミカルで笑えると思います。

とはいえ「継続は力なり」…始めてから1年ですっかり習慣化した給食部のストレッチ体操は日々の積み重ねでかなりの効果があり、これからも楽しく続けていきたいと思っています。

(はぐるま共同作業所 高井 太郎)

## 運営協議会 (令和8年2月27日)

障害者就業・生活支援センターつれもて(以下「つれもて」)の運営協議会を行いました。毎年テーマを変えながら行っているのですが、今回は圏域の就労移行支援事業所、特別支援学校、和歌山市自立支援協議会就労部会事務局の委託相談支援事業所、労働局、ハローワーク、障害者職業センターの方々に集まっただけ『圏域としての就職活動の進め方』というテーマで意見交換を行いました。

現状、各機関が職場開拓等をしながら就職活動を進めていますが、企業の求人ニーズを把握しても、その機関の利用者の中でマッチする人材を見つけられない

ということがあります。そこで、つれもてが支援学校や就労移行支援事業所に求人ニーズの情報を共有し、つれもてが取りまとめ役になって圏域全体としてマッチする人材を探していくという取り組みを提案しました。もちろん、この取り組みで全ての求人ニーズを満たせるわけではありませんが、就労支援のハブ機関として、各機関のがんばりをうまく活かせる仕組みづくりをしていきたいと思っています。

(障害者就業・生活支援センターつれもてセンター長 氏原 嗣朗)

## 働く実践 学びの場 2026に参加しました



去る2月27日・28日に愛知県名古屋市にて開催された、きょうされん就労部会主催の研修に参加しました。1日目は情勢報告、実践レポートの発表と、参加者によるショートプレゼンがありました。私も口下手ながら和の杜の紹介をさせていただきました。

2日目は各分科会に分かれ、私が参加した分科会

ではグループディスカッションを行いました。その中では、下請け作業をしているのに元請けから作業工賃が未払いになっているという唖然とする話があったり、

内職をしているが忙しい時と暇な時との差が激しいと、ウエスの原料が高騰していて価格を上げたいがその交渉がなかなか難しいなど、お互い今直面している課題をぶつけ合いました。

私は、授産活動でのモヤモヤに対するヒントが何か得られるのではないかと思い参加しましたが、今悩んでいる事を話すとアドバイスがそこら中で飛び交い、きょうされんには全国に力強い仲間がいるんだと改めて実感しました。また、ラストセッションでゆたか福祉会の宇田さんが話されていた、「悩みの答えは見つからないが、ヒントは必ず落ちていて」という言葉に背中を押していただきました。

次回は大阪で開催予定ですので、皆さん是非ご参加ください。

(はぐるま共同作業所 和の杜 大末 翔平)

## わされんグループホーム部会見学研修会に参加して



令和8年2月27日、わされんグループホーム部会見学研修会があり、社会福祉法人簡憩会サンメゾンと社会福祉法人和

福祉会すみれを見学させていただきました。どちらの施設も和歌山県北部ののどかな風景が広がる場所にあります。

私は高齢者福祉に長年携わってきました。利用者の方に今できていることをできるだけ続けていけるよう支援してきました。

今は障害のある仲間が少しずつ、小さなことかもわかりませんが何かできるようになったことで、私自身共感や喜びが増えていっている実感があります。研修に参

加させて頂き、取り入れていきたいことや同じような問題を抱えながら支援していることなど感じることができました。この研修で思ったことは、もっと社会に障害者を知ってもら

う、みんな一生懸命生活していることをわかってもらう必要があるのではないのでしょうか?私も知らない一人でした。まだまだどうして?と思うことがありますが、もっと知りたいと、毎日楽しく気付かせて頂いています。

(麦の郷居住福祉事業所 遠藤 佐知子)

## 京都太秦映画村へ行ってきました!



2月13日(金)京都太秦映画村へ行ってきました。

2月とは思えないほど暖かく天候に恵まれ、行きの車中では

京都にちなんだクイズ大会で盛り上がり、映画村では迫力あるアクションが醍醐味の忍者ショーやからくり

屋敷を楽しみ、映画村の俳優さんが演じるお化け屋敷では「怖くて叫んだ!」「もっと怖がらせて欲しかった」など様々でした。

帰りの車中では映画村で撮影された映画を観ながら見学した場所を探したり、最後まで映画村を堪能できました。

リニューアル中で見学できない場所もありましたが、完全リニューアルしたらまた行きたいねという声も出るほど楽しい一日になりました。

(麦の郷和歌山生活支援センター 桑山 加奈子)

## 支えられて実現した黒字化への一歩



2025年度決算セールは最終目標 150万円には届かなかったものの、受注 238件・売上 127万9千円を記録し、第1次目標 100万円は達成、今期の生産活動収支は黒字化の見通しとなりました。多くの皆さまのご支援に心より御礼申し上げます。開所 12年を迎えた当事業所は、「働く権利」を大切に、福祉と雇用の両立に挑み続けてきました。厳しい経営環境の中でも、働く人たちの声に向き合い、これからも着実に歩みを進めてまいります。

(ソーシャルファームもぎたて 中原 力哉)

## 10年戦士おめでとう!!



和の杜では勤続10年の節目のお祝いをしています。

今年も2名のなかまが10年目を迎えるみなでお祝いし食事をしました。

「うれしいです。これからも頑張ります」

「(この白衣を) 目標にしていたのでうれしいです。次の目標は考え中です」と次への意気込みや感想を教えてくださいました。

勤続10年、振り返ればいろんなことがあったと思います。初めてのことも難しいことも、一つひとつを積み重ね、今のみなさんの仕事ぶりにつながっていると思いました。

「10年戦士だけの特別な白衣」があり、これを目標に頑張ってきたという言葉聞いたときは私たち職員もそんな言葉が聞けるなんてと感動しました。白衣には10年戦士だけの刺繍が付いていてキラッと光っています。早速白衣に袖を通し記念撮影。自信とうれしさの笑顔が見られたひと時でした。

これからもよろしくお願いします。

(はぐるま共同作業所 和の社 大垣 麻実)

## むきのひと



こじか園  
浦上 武史

福岡生まれの大阪育ちで、和歌山の知り合いを通じて今から29年前にこじか園が認可施設になることを知り、入職しました。大学で小学校教諭と幼稚園教諭の資格は取ったものの、採用試験に合格できず1年フリーターをしてからの就職でした。

入職した当時のこじか園は、療育システムをみんなで試行錯誤しながら作っていた時代でした。先が見えない、人間関係がうまくいかないなどの理由で、毎年数名が退職する状態でした。療育へのやりがいを持ちながらも辞められた方が多いことは、とても残念に思っています。だからこそ、今年園長という役職についたわたしが、できること・やってみたいことは、誰もが働き続けることができ、お互いのいいところ苦手なところを理解しながら、職員みんなで一歩ずつ前に進んでいくような園を作っていきたいと考えています。うまくできていないことは、遠慮なく言うただき、批判も困難なことも自分の成長する糧として吸収していきたいです。よろしくお願いします。